

私の母

母（雪子）は明治三十七年五月九日に台湾の台北で生まれました。

なぜ台湾なのかと申しますと、母の家は徳川の家臣の本多家（明治維新前、本多は大名十三家、旗本四十五家あり、その中のひとつで家紋は立あおい、本籍は小石川）であります。母の祖父、本多桂造氏は幕末のころ上野の彰義隊に参加。その後、江戸より東北へ敗送しさらに青森まで落ちていったのであります。（母の兄本多桂太郎氏、青森の産）。しかし青森では生活できがたく一家は新天地を求めて台湾へ渡ったのであります。そこで祖父の本多桂造氏は精糖会社を興し、母の父、本多章次郎氏は軍隊関係の料理屋を営んでおりました。そのような中で母は生まれ育ったのです。しかし本多家の商売は武士の商法でありはかばかしくなく、母が台北第一高等女学校を卒業と同時に一家は台湾を引き払いこの関西にやってきました。母はさらに大阪の福島にある外語専門学校で学び、その後京都市内にある会社に英文タイピストとして就職していたと申しておりました（当時帝国大学卒業生よりも月給が多かったとのこと）。

そのようななかにあつてわが金光教にご神縁を頂きました。母の父、本多章次郎氏をはじめ

め兄の桂太郎氏、母（雪子）の三人はともに教師に取り立てられたのであります。（京都西八条教会在籍教師となる）母の兄、本多桂太郎氏は京都七条教会を開設致しました。母は縁あって池田教会二代教会長、四方藤吉のもとに昭和初期嫁いでまいりました。そして私の姉、登久子をはじめ私、徳行・弟、清家・妹、富喜子の四人の子宝に恵まれました。世の中は戦争となり終戦の九日前、二代教会長藤吉急死。そのあと四人の子供をかかえ、戦後の生きにくい時代を池田教会長として教会を守り私たち四人の子供を育ててまいりましたが、女の身での布教と家庭の両面は大変であり、疲れがこうじて病身となり、父亡き後八年の歳月を経て四十九歳の齢をあとに身退りました。それは昭和二十八年二月二十三日であります。

母の生きてまいりました時代を振り返ってみます時、明治から大正・昭和と移り変わり激しき世の中を、めぐり深き家柄に生まれ、その上池田教会のややこしいなかに嫁いでまいり、真一筋に信心を頂いての生活を貫いてまいりましたが、苦勞の連続でありました。母のあと私が教会を継ぐことになりましたから、世の中も次第に落ち着き池田教会も平和な教会におかげを頂いてまいっております。